



YMCA訪問看護ステーション・ピース 編集部  
広島市中区八丁堀7-11  
TEL 082-225-3020 FAX 082-225-3032

こんにちは

暑さも和らいできましたね。いつもご支援いただきありがとうございます。この広報誌を手にして、ピースの名前を久しぶりに目にする方もいらっしゃると思います。この度、広報誌を創刊することになりました。いろいろなピースを垣間見ていただければと思います。

はじめまして、ピースの所長の浜本です。

今回、ピースの広報誌を発行させていただくことになりました。

きっかけは、私事で申し訳ないのですが・・・とある事件がきっかけでした。

「あの周辺にお住まいの〇〇さんや、その御家族様はどうされているのかな？」と気になり、電話や訪問して「ほっ、よかった・・・」と安心する一方で、心配が的中してしまうことがありました。悲しい思いで一杯になりました。

地域のつながりが再度見直されている今だからこそ、皆さまの愛しい方が伝えてくださったいのち（時間）の大切さと、いただいたご縁を大切にしたいと思いました。

まず、第一歩として、広報誌でのやり取りを通じて皆様と細く長く繋がってほしいとの願いから発行致しました。これからも、地域のひとりとして役立てるよう努めさせていただきます。



## ピース いまどき

「行ってきまーす」の声とともに西へ東へ時には北へ…今日も大事な患者さんのお宅へ出かけました。

がん、慢性疾患、難病、障がい児・者の患者さんのもとへ訪問しています。今ではリハビリのスタッフも加わり、よりご利用者様のご要望に沿えるような訪問看護を提供したいと思っております。

8月に起きた広島での土砂災害。皆様や、周囲の方にはお変わりありませんでしたか。あまりの規模の大きさに初めは目を疑いました。ピースも被災地の救護に出向き、ボランティアの方の健康チェックや戸別訪問などのボランティアに参加しています。災害からひと月余り経ち、心身の疲れも出る頃かと思えます。被災された方が、少しでも普段の生活に近づけられるようにと願っています。

## 行ってきました

9月14, 15日に尾道で開催されたリレーフォーライフに行ってきました。

リレーフォーライフとは、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。「がんは24時間眠らない」「がん患者は24時間闘っている」というメッセージを掲げて、1985年から始まりました。

このときにしか会えないがん患者さんや参加している医療従事者と夜中語り、芝生の上に保温用のアルミ箔に包まって、一晚を過ごしました。漆黒の闇から少しずつ広がるあさまだきの時間を感じながら、いろんなことを想像していました。当たり前前の日常が人生の最先端であり、とても小さな感動の積み重ねが幸せな感じにつながるのかな～なんて感じたのでした。



## ピースの枝折—しおり—

101歳のキヨミさん「あんなのことが好きじゃけ、離れんよ」と言ってくれる。

私は笑顔で「でも今日は帰りますよ」と返すと、「タマシイは離れんよ」とキヨミさん。

101歳はタマシイの

話ができるのか!!

それから私はキヨミさんのタマシイを感じながらケアしている。

ご飯が食べられなくなり、床について話ができなくなっても、私とキヨミさんはタマシイで話ができる。



## 風知草 其の一



はじめまして。

私は在宅生活を始めて3年目になります。普段は簡易電動車椅子に乗り、暑くても寒くても雨が降っていても色んな所に出かけています。バス、路面電車、JR、新幹線はもちろん飛行機や観覧車にも乗って色んな出会いを楽しんでいます。まだ車椅子に乗り始めた頃は、車椅子が自分の足だと思えることはできませんでした。ベテラン車椅子利用者の方が車椅子への愛を語っていても、ふんくらいにしか正直思っていませんでした。ですが、どんなときも苦楽を共にしていると気持ちが変わってきて、今では相棒のような存在になっています。

あさまだき

2014/09/10 05:29